

年報

さわらび

2011

さわらび保育園年報 第1号

2011年(平成23年)7月 発行

発行/編集

社会福祉法人 輔仁会 さわらび保育園

〒813-0031 福岡市東区八田4-6-5

[TEL] 092-671-1881 [FAX] 092-671-1763

[E-mail] sawarabi@suo.bbq.jp

[HP] http://www.hojinkai.ed.jp/sawarabi/

年報「さわらび」創刊によせて

さわらび保育園は多くの方々に愛され、昭和四十一年の歴史を刻み、四十一周年を迎えました。その間、いろいろな変容を繰り返しながら、ついに成長を遂げ、現在に至っています。

今年度より園の情報を皆様にお伝えできればと、年報を発行することになりました。内容は、前年度の主なニュースと今年度の行事、その他を載せることにします。

ただし、今年度は初めての年報という事で、二十二年度までの主な取り組みを載せることで、さわらびがこんなになりましたよ、と読んでいただき、懐かしく思い出していただければ幸甚に存じます。

なお、この年報の郵送先につきましては、二十二年度卒園保護者の方々、職員OBの皆様、歴代父母の会会長の皆様、八田校区の諸団体の皆様、に配布の予定にしています。勿論、在園児保護者の皆様には、直接お渡しいたします。

(二十二年度卒園児、今年度以降の卒園児には向こう十年間の購読を希望される方は、十割の郵送料1000円でお送りさせていただきます。)

昭和四十五年、一〇〇名定員で誕生した、さわらび保育園も立ち退き、広田園庭で子ども達もびびと遊び過ごしてまいりました。私も再び平成十五年九月、大きく立派になった保育園に帰ることができ、多くの職員に支えられ、子ども達と過ごす毎日に感謝しています。

開園以来、八七四名を超える卒園児を送り出し、既に社会の中で活躍中の人も多く、頼もしい卒園児に期待を寄せています。

また、今では親、子、孫の三代にわたる園児さんをお預かりするまでになりました。

微力ながら私も大浦仁子会長、大浦純平理事長の保育への情熱を受け継ぎ、さわらび保育園の歴史と良き伝統を守り、更によりよい保育のために研鑽を積み重ねながら成長できるよう職員と共に頑張っております。

男女共同参画社会の時代に於いて、地域に開かれた子育て拠点として子どもと保護者に寄り添うべく、なお一層、職員一同努力して参ります。ご指導とお支えのほど、宜しくお願いいたします。

園長 森部 エミ子

社会福祉法人は自ら行う福祉事業の内容を広く地域に公開・発信する責務を負っています。その意味で「さわらび保育園」では以前から年報を出してまいりましたが、今年から「さわらび保育園」と「新宮つばみ保育園」の両園でも発刊することになりました。社会資源としての保育園の情報をご覧いただき、今後ともご支援ご協力をよろしくお願い致します。

大槌保育園八木沢園長によると、地震発生時は昼寝が終わり、園児約百人はパジャマのまま防災ずきんをかぶり外に、向かったのは小高い丘にある独自の避難場所と決めていたコンビニ。八木沢さんはコンビニ店内で、迎えに来た親に園児のうち約七十人を引き渡し、外を見た。「家の屋根をたたくさ

るような急斜面。でも登るしかない。八木沢さんら保育士二十一人と、さらにスリパー従業員男女が手分けして園児をおんぶし、斜面に張り付くように四つんばいになり、切り株や木に手をかけて登り始めた。上へ、上へ。必死だった。登りながら振り返った。大槌湾から押し寄せる波が、コンビニと園舎、指定避難所の空き地に向かう道路をのみこんでいった。山頂は雪。眼下で火事も起きていた。山頂まで何分かかったか覚えていない。気が持たず落ちていたら、山頂からふもとにつながる細い山道があることに気付いた。歩いてふもとに下りたのは真夜中だった。

コンビニで親に引き渡した園児のうち九人が、死亡または行方不明になっていた。最後に引き渡した女児は、乗用車の中で防災ずきんをかぶった姿のまま遺体で見つかった。

「あそこで引き渡さなければ、あの子は助かったんだろうか。八木沢さんは保育士を辞めようと思いつめたが、保護者の声に支えられ保育園再開のために汗を流そうと決めた。亡くなった子どもや親の分まで、自分にできることを精いっぱいやるつもりだ。

園児を背に必死の避難

岩手県大槌町の保育士ら、急斜面登り園児30名を救う

理事長 / 統括園長 大浦 純平

今、国会で審議入りしようとしている「税と社会保障の一体改革」が気になることです。

内閣府を中心に、幼保一体化を含む「子ども・子育て新システム」もその中に盛り込まれています。そのことをこの紙面に書くつもりで準備していましたが、泥沼状態の政局の下ではどうなるかわかりません。それよりも今回の記事のご紹介が先と思ふこのよう紙面になりました。

とは云え、財源難から市場原理を持ち込んで、福祉制度を次々に撤廃していくという流れを何とか食い止めたいという気持ちは微塵も変わりません。

今後とも、反対の声を上げ続ける積もりです。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

三月の大震災で多くの方々が亡くなり、甚大な被害を受けられたことに心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。また、早期の復興を遂げられ、一刻も早く幸せな日常を取り戻されることを心からお祈り致します。

保護者の皆様からも義捐金を募り、多くの協力をいただきました。保育園を通じて被災を受けた保育園に直接支援を行うことができている。ありがたいと思っています。

そのような不幸の状況下で、私もはどうしても志を同じにする認可保育園のことが気になります。五〇に近い保育園が全壊に近い被害を受けたとの情報がありますが、その全容は未だ判らない状況です。

ここでは是非皆様に読んでいただきたい岩手日報の記事をご紹介します。

「怖い、怖い」と泣きじゃくる園児ら。覚悟を決めた。一歳から年長まで残っていた園児三十人を散歩用の台車に乗せて車道を駆け上り、約三百メートル先の山のふもとへ。近くのスリパー従業員約三十人も避難していた。

さらに津波が迫ってきた。もう考えているひまはなかつた。目の前には三十度を超え

別のある報道では、被災を受けた認可保育園で保育中の園児の死亡は皆無であったというところも聞き及んでいます。

このような緊急時に冷静な判断力と強い決断力をもって必死の避難誘導をした



理事長 / 統括園長 大浦 純平

さわらび保育園のよれ

平成二十三年度父母の会会長を務めております生田と申します。この度の年報創刊にあたって、「さわらび保育園」について改めて考えてみることにしました。

「さわらび保育園のよさを一つあげてみて？」と問われると、みなさんは、どう答えますか。

私は保護者の一人として、「遊びを中心とした活動が充実していること」をあげたいです。優等生回答ですみません。でもやっぱり、子どもは遊ぶのが一番だと思います。園では、子どもたちがしっかりと遊ばせてくれます。「元氣いっぱい笑顔で遊ぶ子どもたち」がさわらび保育園の象徴です。天気の良い日は、必ず、園庭でどろんこになって遊ぶ子どもたちに出会います。「うわあ、服が・・・」と思いつながら、なぜかほっとする瞬間です。

また、さわらび太鼓、読み聞かせ、運動遊び、リトミックなど、多様な活動を通して子どもたちは大きくなっていきます。今年ゆりさん(年長)になった長男も、あこがれだった「さわらび太鼓」に夢中です。「さわらびだいこー、それ、ドンドンドン、ドンドンドン・・・ヤア」そして妹も。

このような子ども達の成長を支える充実した活動が実現されるのも、一生懸命に、親身に子どもと接して下さる先生・職員の皆様のおかげです。安心して子どもを任せられることは、私たち保護者にとって本当にありがたいことです。

そして父母の会の活動も、その園の活動をしつかりとサポートしています。夏祭り、運動会、もちつき、バザー、といった子どもたちも楽しみにしている行事は、保護者の「一人役」に支えられています。これは、四十年を越えた父母の会の伝統であり、これからも引き継がれていく「財産」だと思っています。まさか会長を、しかも2期も務めることになるとは思っていませんでした。皆さんの協力を得ながら、「子どもたちのためにできることを」と考えています。今後とも、さわらび保育園、そして、父母の会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

会長 生田 淳一

法人シンボルマーク「スリーペアーズ」

玄関前にゴリラ・カンガルー・カバの親子のかわいいオブジェが誕生しました。

二十三年度より社会福祉法人輔仁会三園のシンボルマークに決定、体操服もスリーペアーズのマークに変身します。(植原)



平成二十三年度行事



スリーペアーズがお迎えする素敵な玄関になりました

| | |
|--------|-------------|
| 4月1日 | 初めましての会 |
| 2日 | クラス懇談会 |
| 6日 | 園児健康診断(3日間) |
| 15日 | 歓迎遠足 |
| 5月6日 | 家庭訪問 |
| 11日 | 園児健康診断 |
| 21日 | 救急救命講習 |
| 26日 | 歯科健診 |
| 6月8日 | 保育士月間 |
| 6月8日 | 芋苗植え |
| 6月8日 | 観劇会 |
| 6月8日 | 親子保育 |
| 7月2日 | 体力測定(3日間) |
| 7月2日 | 夏祭り |
| 7月2日 | 七夕会 |
| 8月6日 | ゆりキャンフ |
| 8月6日 | 香椎宮夏祭り |
| 9月3日 | クラス懇談会 |
| 9月3日 | コーラス |
| 9月3日 | 運動会 |
| 10月9日 | 交通安全教室 |
| 10月9日 | 園児健康診断 |
| 11月1日 | 芋掘り |
| 11月1日 | 体力測定(3日間) |
| 11月1日 | 園児健康診断 |
| 12月11日 | 落ち葉拾い遠足 |
| 12月11日 | 輔仁会合同音楽発表会 |
| 12月11日 | 於 そびあしんくう |
| 1月6日 | 餅つき |
| 1月6日 | クリスマス会 |
| 1月6日 | 七草会 |
| 1月6日 | クラス懇談会 |
| 1月6日 | どんと焼き・鏡開き |
| 1月6日 | 邦楽の集い |
| 1月6日 | 年少発表会 |
| 1月6日 | 豆まき |
| 2月1日 | さわらび発表会 |
| 2月1日 | お別れ会 |
| 2月1日 | ひなまつり会 |
| 2月1日 | 入園説明会 |
| 2月1日 | お別れ遠足 |
| 2月1日 | 卒園式 |
| 2月1日 | 入園式 |

| 平成22年度 さわらび保育園経理区分 決算状況 (単位 千円) | | |
|---------------------------------|-----------------------------|---------|
| 【 資金収支計算書 】 | | |
| 経常活動による収支 | 運営費収入 | 205,597 |
| | 利用料収入 | 5,642 |
| | その他の経常活動収入 | 22,737 |
| | 経常収入計 (1) | 233,976 |
| | 人件費支出 | 163,662 |
| | 事務費支出 | 19,430 |
| | 事業費支出 | 36,056 |
| | その他の経常活動支出 | 27,220 |
| | 経常支出計 (2) | 246,368 |
| | 経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2) | ▲12,392 |
| 施設整備等による収支 | 施設整備等収入計 (4) | 0 |
| | 施設整備等支出計 (5) | 1,853 |
| | 施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5) | ▲1,853 |
| 財務活動等による収支 | 財務収入計 (7) | 20,000 |
| | 財務支出計 (8) | 8,000 |
| | 財務活動資金収支差額 (9)=(7)-(8) | 12,000 |
| | 当期資金収支差額合計 (10)=(3)+(6)+(9) | -2,245 |
| 前期末支払資金残高 (11) | | 33,213 |
| 当期末支払資金残高 (10)+(11) | | 30,968 |

| 【 貸借対照表 】 | | |
|------------|-------------|---------|
| 資産 | 流動資産 | 41,693 |
| | 固定資産 | 221,455 |
| 資産の合計 | | 263,148 |
| 負債 | 流動負債 | 10,724 |
| | 固定負債 | 0 |
| | 小 計 | 10,724 |
| 純資産 | 基本金 | 72,786 |
| | 国庫補助金等特別積立金 | 77,033 |
| | その他の積立金 | 47,000 |
| | 次期繰越活動収支差額 | 55,604 |
| | 小 計 | 252,423 |
| 負債及び純資産の合計 | | 263,147 |

平成23年度 職員構成
(6月1日現在54名)
理事長 大浦 純平

園長 森部 エミ子
副園長 檜原 洋子
主任 中北 由里
副主任 有馬里恵

- | | |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| つぼみ組 | 野田 理奈 安部 加南子 重野 しのぶ 種市 香織 村上 直美 渡邊 久美子 松田 雄紀 福山 ひとみ 佐藤 由佳 |
| もも組 | 森 直美 鈴木 千佳子 古家 篤子 田中 孝子 斉藤 直美 |
| うめ組 | 小林 千春 瓜生 由希子 津田 豊子 澤田 陽子 袴田 れい子 |
| ふじ1組 | 飛来 弘子 田中 麻菜 徳田 寿子 池松 順子 岩永 浩美 |
| ふじ2組 | 有馬 里恵 指宿 絵里 樋口 紀子 前車 智子 今村 優巳子 岩下 香苗 |
| なのはな組 | 尾崎 沙織 中里 麻衣子 |
| たんぼぼ組 | 楠本 勝馬 安藤 里美 |
| すみれ組 | 石原 由依 土谷 賢吾 |
| れんげ組 | 荒津 佐知子 畠山 美桜 |
| 栄養士 調理員 | 西岡 広美 渡邊 和 串崎 美津代 三浦 明美 大塚 美代子 池田 善子 清水 妃鶴 斉藤 豊子 |
| 事務員 用務員 産休中職員 | 林 美由起 樋口 元子 水田 鈴代 中村 文 平河奈緒子 |

- 平成23年度 父母の会役員**
- 会長 生田 淳一 (つくし)
副会長 倉富 幸康 (すみれ)
書記 佐谷 美代子 (つくし)
中島 早智恵 (すみれ)
宮木 華子 (れんげ)
中村 華里 (たんぼぼ)
長嶋 裕子 (つくし)
- 役員 長谷川麻希子 (なのはな)
大橋 智子 (なのはな)
浦田 麻衣 (なのはな)
中田 久美子 (なのはな)
山口 幸子 (たんぼぼ)
前浜 和子 (たんぼぼ)
本田 康子 (たんぼぼ)
松山 さおり (すみれ)
倉富 真美 (すみれ)
高橋 浩司 (すみれ)
浅野 祐子 (れんげ)
杉若 純子 (れんげ)
木下 麻衣子 (れんげ)
木林 明子 (つくし)
鳥元 友美 (つくし)
田中 美里 (ふじ1)
本郷 史実 (ふじ1)
小茂田 和美 (ふじ2)
三角 幸子 (ふじ2)
麻上 夏美 (うめ)
永田 優美 (うめ)
平島 友紀 (もも)
原 粧貴 (もも)
中島 史子 (つぼみ)
深町 佳子 (つぼみ)

編集後記
創立42年目にして初の年報。そんな大イベントの実行委員に選ばれてしまいました。私たちの歩む姿、いかがでしたでしょうか...。ご意見ご感想をお寄せ下さい。
(有馬・楠本)

給食室が広く新しくなり、更に食育に力を注いでいます。

平成十九年三月、給食室が新しくなると同時に、食器が陶器になり三歳児以上児は制度上では主食を家庭から持ってくるのが原則ですが、温かいご飯を提供、旬のおかずで幸せな給食風景です。また、陶器の食器になり、化学製品の食器と違って、重さがあり、落とせば割れる食器の取り扱いも丁寧になってきています。
(西岡)

二十五年前にスタートしたさわらび太鼓。当時の職員で基本のリズムを作り、今までのリズムが引き継がれています。子どもにとつて本能的な動作である、「打つ・叩く」として音楽を作る太鼓は、心に響く音感教育として取り組んでいます。ゆり組になってからたたくことのできる「さわらび太鼓」は小さな頃から憧れます。
夏祭り・香椎宮夏祭り・運動会・三園合同発表会の計六回、たくさんのお客様の前で太鼓を披露します。卒園後も太鼓をたたきたい子が集まって、「さわらび太鼓」として、月に一回練習し、夏祭り、邦楽の集いで披露しています。
十二月の三園合同発表会ではゆり組の保護者、職員で「大さわらび太鼓」をたたいています。子ども達に負けないように十月頃から練習をはじめ、発表会に臨みます。
これからも太鼓のリズムを心、身体で感じながら、楽しんでいきたいと思えます。
(楠本)



寄せられた意見・要望
(社会福祉法の公表義務付けに準拠)

| 受付年月日 | 申出者 | 受付内容 | 解決結果 |
|---------|---------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| H22年06月 | 2歳児 祖母 | ・親同士、話をしながら子どもだけ門から飛び出してきて車で轢きそうになった。必ず子どもの手を引いて門の出入りをするように厳重に注意して欲しいとの電話有り。 | ・お詫び申し上げ、保護者には早速注意をします。と言うことで納得された。 |
| H22年06月 | 意見箱 | ・グループ帽子に飾りをつけるのはいけないのか。グループ帽子以外の帽子をつけている子もいるのに、とお尋ねの手紙が無記名で意見箱に投函されていた。 | ・飾りはつけないように。(一人がつけると他の子もまねる)飾りをつける危険。小さいクラスは決まった帽子は無い。帽子が汚れた時は、他の帽子をかぶっても良いと保護者に手紙を配布する。 |
| H22年10月 | 近隣男性 | ・運動会終了後、ゴミや煙草の吸い殻が散らかっている。練習中も音がやかましい。駐車場で勝手に止めている。等の電話有り。 | ・ご迷惑をお詫びし、再度B広場の清掃をする。(運動会終了後きれいに清掃をし組長さんに挨拶もすませたのだが、一緒に見回って頂ければ良かった。) |
| H23年03月 | 7700棟男性 | ・工事の音がうるさい。朝早くからドアの開閉がうるさくゆっくり眠れない。との電話有り。 | ・八田団地自治協議会副会長に相談。了解を取っているからとの事だったが、工事のお詫びの張り紙を団地入り口に掲示、玄関ドアの開閉には音が出ないよう防音シールを貼る事で了解して頂く。 |

**** 充実した保育を求めて ****
さわらび保育園のこれまでの歩みです

3,4,5歳児の異年齢保育に移行

異年齢保育は、現代の保育課題として積極的に取り組む必要があると二十一年度より三歳児以上の縦割り保育に移行しました。長時間の園生活の中で「きょうだい」のような関わりや一緒に遊んだり、自分と異なる人との関わりを学びながら、様々な人と関わり合う子どもの心の育ち、つまり優しさ、思いやり、我慢する心などを身につけて、年少児は年長児のいろんな事を真似ながら、やってみたいという意欲を持ち挑戦しています。
移行して三年目、子どもの生活や遊びに展開が見られ、特に友達同士、年少児への思いやり優しさなど、確実に育っていることを実感しています。
(中北)



さわらび畑で季節の野菜を収穫

平成十八年に駐車場横に畑ができました。広い畑に、芋の苗を植え、秋にはたくさんのおいしいもを収穫することができました。その後も、地域の方のご協力を得ながら、夏野菜、玉ねぎ、さつまいも、じゃがいも、などを植えています。子ども達は収穫、水やり、土作りなど、日頃体験することのできない事を経験して楽しんでいきます。
また、野菜の収穫を経験するたびに、給食で使われている野菜にも興味を示している子どもたち。
太陽、土、水などの自然を感じながら、野菜の成長と共に子どもたちの心も大きく成長する姿が見られます。
(有馬)



平成十八年四月、八田団地の空き地の一部を借り、送迎用駐車場が出来ました。団地の皆様には路上駐車などで大変ご迷惑をおかけしていましたが、保護者との皆様にとつて利用しやすい保育園となった事と思います。隣の畑の作物を親子でそのいでいる姿も見られます。
今年度には、玄関前の螺旋滑り台が撤去され、駐輪場も広くなって自転車送迎の方も喜んで利用されています。
(古家)